



平成20年9月30日

各 位

株 式 会 社 焼 肉 屋 さ か い  
代表取締役社長 緒方 智  
(JASDAQ・コード：7622)  
問合せ先 取締役管理本部長 乗松 康弘  
T E L : 0 5 2 ( 9 1 0 ) 1 7 2 9

## 平成21年3月期 業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年5月12日付の「平成20年3月期 決算短信(非連結)」にて発表いたしました平成21年3月期(平成20年4月1日～平成21年3月31日)の第2四半期累計期間及び通期の業績予想を、下記のとおり修正いたします。

### 記

#### 1. 平成21年3月期第2四半期累計期間業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回修正予想(A)	6,121	541	508	482
今回修正予想(B)	5,505	413	432	418
増減額(B-A)	△616	△128	△76	△64
増減率(%)	△10.1	△23.6	△15.0	△13.2
前期実績 (平成19年9月中間期)	5,958	423	357	332

#### 2. 平成21年3月期通期業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回修正予想(A)	12,122	974	907	823
今回修正予想(B)	10,678	795	884	924
増減額(B-A)	△1,444	△179	△23	101
増減率(%)	△11.9	△18.3	△2.5	12.2
前期実績 (平成20年3月期)	11,467	813	688	654

#### 3. 修正の理由

##### (1) 第2四半期累計期間業績予想修正の理由

当期において第1四半期会計期間時点におきまして、原油高にかかる影響や食の安全、モラルについて信頼を損なう事件が相次ぎ発生するなどの外部要因もありますが、当社におきましては、顧客獲得に向けた販促活動を行いました。ロードサイド型店舗を多く抱える当社においては車両利用減などの機会損失もあり、既存店における集客数が伸び悩みました。

事業計画と対比しまして、特に売上高におきましては計画値から下方にて推移いたしておりました。この推移を挽回すべく、繁忙期にあたる7月、8月度での集客および売上高の増加に向け、昼間の時間帯によるランチ営業を行うなどの施策を行いました。週末時のゲリラ豪雨による影響もあり、売上高が減少し収支、収益とも若干、計画対比より下方にて推移いたしておりました。

加えて売上高におきましては前事業年度まで売上高として計上しておりました専売料収入や不動産賃貸収入において、当第1四半期会計期間より、売上高より営業外収益への計上へ変更となり、売上高における計画比において、

会計的な要因からも計画対比での乖離が出てまいりました。

上記に記載の通りの進捗遅れが要因となり、売上高は5,505百万円(10.1%減)、営業利益413百万円(23.6%減)、経常利益432百万円(15.0%減)、当期純利益におきましては418百万円(13.2%減)に修正することとなりました。

## (2) 通期業績予想修正の理由

通期の業績見通しといたしましては、上期同様に厳しい、「牛井」および「しゃぶしゃぶ」といった新たな業態への取り組みにより、これらの新しい業態も含め、「肉」に関する事業の強化を進め、顧客獲得に注力いたします。

平成20年9月30日付にて、レストラン事業の一部である「まるさ水産部門」および「元町珈琲部門」の事業譲渡を行う決議を行い、より専門的に「肉」に関する事業に特化し、競合他社との差別化を図ることといたしました。この事業譲渡に伴い、直営店舗で11店舗の減少、またFC店舗におきましても3店舗の減少予定であります。

(※本事業譲渡に係る通期業績への影響見通しは、下記に記載しております「ご参考」(1)「まるさ水産部門」および「元町珈琲部門」の事業譲渡にかかる通期業績への影響見通しをご参照ください。)

上記の事業譲渡とともに、平成20年9月12日付および平成20年9月30日付にて発表させていただきました「一牛事業」の店舗資産取得による店舗数の増加に伴い11店舗が増加いたしますが、現在の主力であります「焼肉屋さかい」の店舗と比較し、店舗サイズが小さく収支としての急激な拡大とはいかない見込みであります。

(※本店舗資産取得に係る通期業績への影響見通しは、下記に記載しております「ご参考」(2)「一牛事業」の店舗資産の譲受けにかかる通期業績への影響見通しをご参照ください。)

また取得した店舗のリニューアル費用などの改装投資の発生を見込んでおり、営業利益としましては収支減少に伴い、当初計画より減少する見込みであります。経常利益に与える影響としましては、平成20年10月1日より運営を開始いたします「牛井業態」におきまして、第3四半期会計期間以降に本格的なフランチャイズ本部運営を進めることから、フランチャイズ事業における収益の増加や売上高から営業外収益への計上科目の変更となりました専売料収入などの会計的な要素も含まれるため、当初計画からの修正見通しは軽微な見込みであります。

なお「まるさ水産部門」および「元町珈琲部門」の事業譲渡に伴い、事業性評価として特別利益112百万円を計上する見込みであり、当期純利益におきましては当初計画より増加する見込みであります。

以上の結果、平成21年3月期の通期における売上高につきましては、10,678百万円(11.9%減)、営業利益795百万円(18.3%減)、経常利益885百万円(2.5%減)、当期純利益におきましては924百万円(12.2%増)に通期の業績予想を修正いたします。

### 【ご参考】

#### (1) 「まるさ水産部門」および「元町珈琲部門」の事業譲渡にかかる通期業績への影響見通し

	平成21年3月期
売上高	△758百万円
営業利益	△64百万円
経常利益	△64百万円
当期純利益	48百万円

#### (2) 「一牛事業」の店舗資産の譲受けにかかる通期業績への影響見通し

	平成21年3月期
売上高	288百万円
営業利益	55百万円
経常利益	55百万円
当期純利益	55百万円

### ※将来に関する記述等についての注意事項

本資料に含まれる将来の見通しに関する事項は、現時点での入手可能な情報に基づいて作成したものでありますが、潜在的なリスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は今後の様々な要因により、これら見通しとは大きく異なる可能性があります。

以上